

1 飼料作物（牧草）

①収穫時期

牧草は一般に生育が進むにつれて繊維含量が増加し、収量は上がるものの消化率が低下するため、栄養価は低くなる。また、生育初期の牧草は家畜の嗜好性が高い。収量と栄養価のバランスを考慮し、出穂始～開花前に収穫する。

②予乾・反転

ほ場での予乾ムラはロールベールサイレージ品質や家畜の生産性に影響する。テッダーレーキで反転を行い、水分50～60%まで天日予乾する。

水分が高い状態のままラップをすると、酪酸発酵が起こりやすく牛の嗜好性も低下する。また、貯蔵中のロールベール内で水分が下部へ移行し、排汁が流出し、ロールベールの成形が崩れることがある。

さらに、水分の低い部分は梱包密度が低く空気の混入も多いため、カビの増殖やヒートダメージを発生させる要因となる。そのため、予乾が均一になるように、時々反転し、水分ムラを防ぐ。

③集草・梱包

テッダーレーキで乾草した草を集めてロールベラーで成形梱包（ロール）する。その際、土砂の混入はカビの発生、発酵品質の低下および嗜好性の低下の原因となるため、土砂を混入させないように注意する。

④ラッピング

ラップフィルムの巻き数は、その後のロールベールの保存性に大きく影響する。長期間保存する場合は、フィルムの劣化や弛みによって気密性が低下し、カビが発生して廃棄率が高まりやすい。通年給与する場合は、6層巻以上でラップすることが望ましい。

⑤貯蔵

サイレージは、1ヶ月間以上発酵させて牛に食べさせる。また、貯蔵の際、以下のことに心掛ける。

- ・運搬する際、フィルムに傷付けない。
- ・排水良好な場所で縦積み2段以内で保管する。
- ・シートや網ネットなどをかけて鳥獣害を防ぐ。
- ・貯蔵中は定期点検を行い、フィルムの破損を発見した場合、速やかに補修する。

⑥追肥

2番草の収量を確保するために、1番草収穫後、窒素成分を中心に7kg/10a程度、追肥を行う。